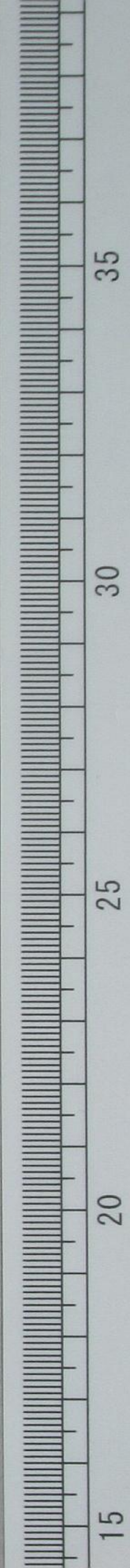




智氏家訓

上

柳田文庫
文庫11
A1478
1



文庫11
A1478
1

查斯德費耳土公小傳

チエ ス トル フ井ール ト

費利比姓斯丹和不倫敦人也生千六

飯塚記

同

百九十四年少年少時如痴鈍者父母朋友

或悲之或欺之年十八入大學黽勉不

怠去而周遊歐洲大曉天下之事後歸

國而輔導太子遷而為下院議員及父

卒嗣其後而進伯爵乃遷上院議員其

議事周密切適院中無以人皆服之後
太子即位公當為所寵眷而王惑皇后
之言出公奉使於和蘭決和戰之事公
赴和蘭以口舌皇張國威而不喋戰血
人皆善之自和蘭歸王復出公為阿爾
蘭知國事阿爾蘭古稱難治而公治之
如太容易者人皆賞之公之名乃大顯

於是王怒冰解迎公為國事參謀寵眷
殊渥太凡公之處事鑿々中肯綮而風
流機警亦為當時第一所著智氏家訓
周遊中所自得而其機警一讀乃可見
也誰知公少時之痴鈍如彼而後來之
所成如此美哉公老而告病王惜之欲
以侯爵榮之公固辭而不受千七百七

十三年卒年七十九公博學能文善談
 論亦識人而治國則其所最長及卒朝
 野惜之余今譯公之書且附其小傳而
 警世之少時有戈名而後來莫成者云

明治八年一月

永峰秀樹識

智氏家訓目次

卷之一

放心ウツカリ

不行儀ブヤホウ

羞澁ハッカリ

交友

言語

二十七則

談話把襟
 把襟把襟
 妨礙妨礙
 論駁論駁
 列坐列坐
 深黙深黙
 之禮貌

衆中長談
 長談長談
 耳語耳語
 取與取與
 退避退避
 爭論爭論
 詭譎詭譎
 見面見面

小說注意
 注意注意
 深藏深藏
 溫和溫和
 議論議論
 自負自負
 罵辱罵辱

卷之二

賤衆
輕蔑
密事
重厚

儉約

親昵

風流 二十一則

樂人
切肉
禮儀
獻盃
笑音
字音
並談話

百禽鳥
私事
觀人

盟誓
笑言
種言

言語
考トナリ止
言語ノ用法
然諾
尺牘
假音
陋言

遊樂
清潔
衣服并舞蹈
忽平
渾名
言語
奇風
文書

卷之三 通世情

虛誕

重厚

容儀温而心意剛

行狀

世俗之意見

能辨

腐儒

娛樂

我意 宗派 時自 德滿

柳田泉文庫

智氏家訓卷之一



放心ホウシン

凡ソ人慎ンテ放心ナルベカラズ
ノ嫌フ處ニシテ自然友ヲ得ル少ナキモノナリ
放心ニ二種アリ一ハ事物ノ感動過甚ニシテ心
意身ニ添ハサルモノ一ハ甚々怯懦ニシテ事ニ
會シ手足ノ措ク所ヲ得サル若キモノナリ此二

英國 千正ストルフ#ールド 原著
駿河 永峯 秀樹 譯述

種ノ人共ニ政府有司ノ任ニ堪ユ可カラズ爰ニ
放心人ノ形態一二ヲ掲ケ云ハ、此人常ニ人ト
談話スルヲ悦ハス然レモ氣ノ向キタル時ハ率
爾醒覺シタル如ク人ノ談話ノ中ニ會釋モナク
已カ所思ヲ演テ人ノ話シヲ妨クルアリ又放心
人ヲ傍觀スレハ邊瀆スル處アルカ如シト雖モ
其實ハ天花板ノ節孔ヲ數ヘ居ルヘシ又路ニ親
友ト會スルモ道路人ト異ナラス親友之ト談話
スルモ答辭セス他人ノ家ニ行ケハ帽子杖等ヲ
區ナル室ニ置キ扣子孔ハ斜ニ衣ノ兩袖ハ一短

一長ニシテ之ニ著意セス此ノ如キ人ハ怯懦ニ
シテ手ノ舞足ノ踏ム處ヲ知ラザル者カ否ラサ
レハ重大ノ事ヲ思考スルカ為メニ精神ヲ費ヤ
シ心口目前ニアラサルモノナリ往昔ノ大學者
ニ「ト」ト「コ」クニ子ノ如キモ格物窮理ノ為メニ
精神ヲ費ヤシ目前ノ事ヲ疎ニシタルヲ以テ亦
放心人タルヲ免カレス
目前ノ事ヲ處分スル能ハスシテ事ヲ執リ物ヲ
議スルヲ得ルモノハアラス人放心ナランヨリ
寧口死スルニ若カス夫レ死者ハ身此ニ在ラサ

ルヲ以テ事ニ妨ケナシト雖片既ニ此在ニ生活
シテ頃刻^{シハラク}モ放心ナルハ世ニ生息スルノ益ナキ
ナリ
放心人ト伍スルハ死者ト伍スルニ若カス死者
ハ俱ニ居テ快樂モナク亦悔慢^{アヘドク}モナシ放心人ハ
人ヲ見ル木石ノ如ク共事ヲ議シテ答ヘス我ヲ
共ニ議スルニ足ラサル者トナスカ如キ形態ア
リ之レ吾カ放心人ト伍スルハ死者ニ若カスト
云フ所以ナリ
凡ソ世ニ處スルノ知識人ニ交ハルノ學問ヲ得

ント欲セハ思考最モ沈重ナルヘシ夫ノ齡ニ頌
白ニ至テ猶ホ世情ニ於テ黃口兒ニ劣ル數等ナ
ル者許多アリ之レ他ナシ浮躁ト放縱トニ日月
ヲ空シク徑過シタルニ因テナリ世人各術アツ
テ其中心ヲ掩フ故ニ人ノ中心ヲ透見セント欲
セハ思察ト聰明トヲ用ヒサル可カラズ
嗚呼自尊ハ人ノ天性ナリ故ニ他人ノ自負自尊
ヲ徒ラニ挫^{クビ}カサルハ世ニ處スルノ法ニシテ人
ヲ敬スルノ道ナリ夫ノ小事ト雖片心ヲ用フレ
ハ人ヲ喜ハシムヘキモノ許多アリ譬ヘハ招賓^{キヤクヲヨブ}

ノ際^{トキ}其人ノ嗜ム酒肴ヲ備ヘ衆客列スルノ後其
意ヲ表シ其烹炙ノ宜シカラサルヲ謝スルカ如
キ甚夕來賓ヲ喜ハシムヘキモノナリマタ各人
事物ニ好惡アリ爰ニ猫ヲ嫌フ人アラニ故ラ
ニ猫ヲ呼ニテ其人ニ近ツカシメ其嫌惡ノ狀態
ヲ見テ之ヲ嘲リ笑フ片ハ始メハ愠リ次ニハ忿
怒ヲ發スヘシ夫レ人ノ嗜好ニ心ヲ用ヒ其嫌惡
スル所ヲ去ルハ敬禮ヲ表スルノ道ナリ故ニ隨
ツテ其人ト親善ナルコトヲ得ヘシ其事至小故ニ
却ツテ^{キラツケ}注意ノ密ナルヲ^{アラ}徴ハスニ足リ心ヲ喜ハ

シムル至ツテ切ナラン若シ人アリ吾カ為メニ
斯クノ如ク注意スルモノアラハ吾カ心必ラス
悦ハン之レ自負自尊ハ人ノ天性ナレハナリカ
ク一^ク度親善ヲ得レハ爾^{ソノ}後萬事ニ於テ自然親信
ノ意アリ事ヲ共ニシテ大ヒニ平易ナラン之レ
世ニ處ルニ平安ヲ得ヘキノ一法ナリ他ハ類推
スヘシ

不行儀

凡ソ人儀容ナカルヘカラス儀容ナキ者ハ世人
ト親睦スル能ハスタトヒ德義才智アル人モ奇

服怪状威儀ヲ失ナフ者ハ世人ノ親睦少ナカラ
凡ソ儀容ノ善惡ハ朋友ノ善惡ト自己ノ注意不
注意トノ二者ニ起原ス
爰ニ失儀人ノ^{フギヤウキナヒト}取態ヲ云ハ、他人ノ室ニ入ラニ
トシテ^{アツラ}惚忙兩脚ノ間ニ劍鞘ヲ挟ニテ殆ント顛
倒セントシ漸ヤク體ヲ復スルヤ否直進シテ奥
ニ立チ^ラ外容立ルノ位置頭足ノ位置未タ定マラサ
ルニ帽子ヲ床上ニ落シ落チタル帽子ヲ拾ハン
ト其杖ヲ倒シ倒レタル杖ヲ起サント再ヒ帽子

ヲ落ス、カク他人ノ室ニ入り手足ノ位置ヲ得ル
若干時ヲ要シ茶ヲ喫ハ噴テ傍人ヲ唾沫ニ汚シ
茶^{ハツ}碟ヲ失シテ襦袴ヲ汚スヲ常トス食ニ臨ンテ
其刀叉ヲ執ル都テ異様ナリ刀ヲ以テ屢々唇ニ
傷ケ又ヲ以テ齒ヲ刺シ一度用ヒタル匙ヲ皿中
ニ置キ肉ヲ坊ル關節ニ當ラス強ヒテ^{オシ}推切ニセ
ントシテ刀ヲ失シ液汁ヲ四方ニ飛ハシ手巾ハ
鉤孔ヲ貫ヒテ額下ニ^{ヒルカ}翻リタルニ其面ハ常ニ汁
ヤ脂ニ^{アヤシ}奇ク塗抹タルモ嘗テ之ヲ拭フニ意ナシ
酒ヲ呑ンテハ咳嗽ヲ發シ噴沫ヲ飛スカ如キ怪

狀異態枚擧ニ違アラス又此人手中ニ物ナキ片
ハ之ヲ安ンスル所ヲシラス或ハ口頭ニ在リ或
ハ胸上ニ在リ或ハ股間ニ在リ常ニ上下左右シ
テ頃刻モ其處ヲ安ンセス萬更世人ト異様ナリ
是ノ如キ行狀決シテ罪惡ノ業ニハ非サレ凡世
人朋友ノ嫌惡嘲笑物タルヘキヲ以テ之ヲ慎マ
サルヘカラサルナリ
前條ノ失儀ヨリシテ儀容ノ正道ヲ知ルニ足ラ
シ儀容アリ世情ヲ解スル達士ハ世人ト親善シ
易カルヘシ

又訛言濁音陳語俚諺ハ習儀ナキモノ、明兆ナ
リ
心ニモ亦容儀アリ心ノ失儀ヲ戒レムヘシ人ノ
姓名ヲ忘レ傍人ニ問ヒ又稱呼ヲ誤用シ又事ヲ
談シテ半塗ニ到リ口ヲ開ヒテ語ル能ハス傍人
銳意傾聆其結局ヲ知ラント欲スルモノヲシテ
索然味ナカレシムルアリ斯ノ如キ者ヲ心ノ失
儀ト云フ戒ムヘシ都テ其原委ヲ熟知スル事ナ
ラサレハ談セサルヘシ

羞耻
ハツカシカル

尊貴ノ人問ヲ起セハ面赧ク舌澁リ俄カニ答フ
ル能ハスシテ傍人ノ嘲笑ヲ受クルモノハ我國
英野夫ノ陋習ナリ

謙遜ノ宜ニ適フモノハ實ニ貴フヘク妄リニ瀆
澁スルモノハ捧腹ニ勝ヘス妄リニ羞澁スルト
無耻トハ均シク道ニ合ハス人ヲ見レハ既ニ畏
懼ヲ懷キ言語澁リ容儀ナキモノハタトヘ内ニ
戈能ヲ懷ク氏怯懦ニシテ用フル能ハス終身為
不有ル能ハサルヘシ無恥者ハ身ニ有タサル才
能ヲ衡^{ナラ}ヒ之レ亦世ノ罵辱ヲ被フルヘシ達士ハ

自己ノ權ヲ失ハス百折千挫其志ヲ屈セス精神
勇銳ナルハ遠ク無恥ノ徒ニ勝レル事ヲ為ス必ラ
ハ方アリ歩々地ヲ占テ毫モ後退ナク終ニ善ク
其目的ヲ遂クルニ至ル
我國人^英概シテ衆中ニ入ルヲ恥ツ其身怪異ナ
クシハ何シノ恥ル所アラシマ衆中ニ入ル猶ホ
自室ニ入ルカ如ク平易ナルヘシ醜行不學唯羞
愧スヘキノミ若シ行ヒ正ク學問アラハ帝王ニ
對スルモ恐懼羞愧ナカルヘシ夫ノ惡友ト伍ス
ルモノハ衆中ニ入ルヲ愧ルノ發程ナリ

又忘リニ羞ルノ愚ナルヲ悟リ恰カモ怯夫ノ恐
懼極ツテ身ヲ顧ミサルカ如ク直進シテ無恥ノ
徒トナルアリ誠ムハシ夫ノ達士ハ偏セス頗セ
ス能ク適度ヲ得ルヲ以テ群衆ニ入ツテ温和ニ
シテ重厚ナリ此ノ如キ人ヲ称シテ君子ト云フ
ベシ

野夫ノ衆中ニ入ルヤ先ツ羞テ席ニ就キ既ニ人
ノ問ヲ受ケテ目ヲ睜リ口ヲ開ヒテ答フル所ヲ
知ラス匆忙^{アハテ}其手ヲ安ニスルノ地ナキカ如シ達
士ハ然ラス悠然ト来リ泰然ト坐シ禮ヲ尊卑ニ

失ハス天子ニ恐懼セス僕婢ニ倨傲ナラス各其
宜キヲ盡スモノハ良友ト交ハリ高士ト語ルノ
利ナリ良家ノ子ハ卑賤ニ無禮ナラス尊長ヲ敬
礼シテ而モ局促ナラス斯ニ二人アランニ其一
人ハ儀容アリ其一人ハ容儀ニ粗ナラハ其容儀
アル者ハ其才能他一人ニ劣リタルモ世ノ尊敬
却ツテ優ラン汝等宜シク謙遜儀容自信ノ三者
ヲ身ニ備ヘン^トヲ務ムヘシ

交友

善人タラント欲セハ宜ク友ヲ撰フヘシ就中幼

時ノ友ハ大切ナリ相親愛スルモノ必ラス皆良
友ナラス良友ハ門地ニ関テス位階ヲ問ハス學
優ニ徳高キ者ヲ云フ良友ハ兩意相傾投スルヲ
以テ自ラ相集マルモノナリ善風良語ハ此集會
中ニ學習スヘシ吾人ノ見ハ直子ニ其友ノ善
惡ヲ知ル可シ國法ノ指令ニ非ラスト雖氏目今
良友集會ノ言語ナルモノ自カラ世間ノ言語ト
區別アリ人ノ尊重スル言語トナレリ良友集會
高貴ノ集會ヲ良友集會ト呼フヲ得ス高貴人モ
亦愚蒙惡風不徳ナル卑賤ノ者ト同シキモノア

リ
才徳^藝功德アル者タリ氏至賤ノ集會ヲ良友集會
ト云フヘカラスコレ敬愛スヘシト雖氏日夜其
間ニ往来スルハ嘉ナラス
學士ノ集會ハ實ニ尊重スヘシト雖氏良友集會
ト稱スヘカラス學者概子世間ニ踈ナルヲ以テ
世人ト交ハルニ寛裕禮讓ヲ缺クモノナリ汝等
學力能ク其集會ニ入ルヲ得ハ時々往来スヘシ
自然他朋友ノ貴重ヲ受クヘシ
才子詩人ノ集會ハ敏慧^{カキ}少年ノ尤モ愛スル所ニ

シテ又不才ノ者モ其集會ニ加ハルヲ以テ榮ト
セリ然レ氏能ク自カラ檢束シテ往来餘リ繁カ
ラサル様心掛クヘシ才子屢々恐怖スヘキノ事
ヲ起スヲ以テ世人才ノ字ヲ恐ル、猶ホ婦女子
ノ銃砲ニ於ケルト一般ナリ婦女子ハ銃砲ノ自
癸シテ人ヲ斃サン歟ヲ疑カヒ世人ハ才ノ自カ
ラ大事ヲ引起スヲ信ス然リト雖氏斯ノ集會實
ニ交ハリテ益アリ屢々往来スルモ佳ナリ但シ
此集會ノミニ交ハラス他人諸集會ト均シク相
往来スルヲ嘉トス

之ヲ要スルニ汝ノ及カサル者ヲ友トセヨ汝ニ
及カサル者ヲ友トスル勿レ
良友ニ二種アリ一ハ顯官ニ居リ華美ニ生活ス
ル人一ハ學藝功業ニ名アル人ヲ云フ
官ナク學ナク功業ナク風俗賤シキモノ之ヲ惡
友ト云フ宜シク避ケテ近ツクヘカラス又誠メ
テ倨傲ナルヘカラス倍傲ハ人ヲ愚ニシ罪ニ陷
ラシムルノ具タリ驕傲ナルヨリシテ先輩ト遊
ブヲ欲セス好シテ後輩ト伍シ仰カレテ首長ト
ナリ此輩ヲヒキマシ願使シテ得意トス此輩ノ中ニ在ツ

テハ吾言語命令皆其賞譽嘆服スル所タルモ首
ヲ回セハ既ニ曩ノ朋友ト相距ル遠ク再ヒ其伴
ニ入ルヲ得ルニ至ル豈慨嘆ニ勝ヘサル所ナ
ラスヤ
既ニ朋友取捨ノ法ヲ解サハ次ニ朋友ニ交ハル
心得一二ヲ掲ケ示サン
少年ノ初メテ父母ヲ離レ世間ニ出ルマ必ラス
先ツ朋友ヲ得ントス既ニ朋友ヲ得レハ必ラス
之ト親善シ之ニ模倣セントスヘシ然ルニ不幸
ニシテ模倣其所ヲ得ス却ツテ為メニ身ヲ誤ツ

者許多アリ聞人名士ノ飲酒博奕放蕩ナル者ヲ
見テ速カニ之ニ倣ヒ飲酒博奕放蕩ハ聲名ヲ得
ルノ正法ト誤認シ彼衆士ノ聲名アル所以ハ其
稟賦學問教育及其他才能ノ衆ニ抜ニツルカ為
ニシテ今其倣フ所ハ特ニ其瑕疵ナルヲ悟ラス
豈誤レルノ甚シキ者ナラスヤ
若シ人不幸ニシテ惡質アラハ已カ固有ノ惡質
ニ満足スヘシ他人ノ惡質ヲ取ツテ已カ惡質ニ
加フル勿レ少年ノ身ヲ破ル他人ノ惡質ヲ取ツ
テ已カ固有ニ加フルヨリ起ルモノ特ニ天賦ノ

悪質ノミニ起ルモノ二十倍ス
到ル處其地ノ高士ヲ友トシ其動作容止行状言
語ヲ學フヘシ其人ノ悪質ノ如キハ其人ノ醜態
ナリ慎ンテ倣フヘカラス善士ニシテ悪行アル
ハ美人ノ故ヲニ痣ヲ作ツテ美ヲ害フカ如シ其
美ニ倣ハント欲シテ特ニ其痣ヲ添フル者アラ
ンヤ
此人ニシテ此痣ナクシハ其美ヲ添フル果メ如何
ヲ思念スヘシ
言語ノ二十七則

第一則 談話

人ト談話スルハ屢スヘシ長カルヘカラス長談
ハ人ヲ倦マシム

第二則 衆中

談話セント欲セハ先ツ衆人ヲ見ルヘシ世人君
子寡ナク小人衆シ人ヲ面責スル少ク諂諛スル
多シ故ニ小人ノ集會ニ善ヲ譽メ惡ヲ毀レハ満
座ノ怒リヲ惹キ起スヘシ然ルニ他人ノ談吾更
ニ関涉スル如キモノアルモ徒ラニ疑ヲ起スナ
カレ

第三則 小説不急

小説ハ短カ、ルヘク且ツ好機會ニ發スヘシ屢
スヘカラス不^{イリヨウナキ}急ノ談ヲナスナカレ小説不急ヲ
屢談スルモノハ思慮ニ乏シキヲ示スナリ

第四則 把襟

強ヒテ已カ話シヲ聞カシメント人ノ襟ヤ手ヲ
把ルモノアリ人汝ノ言ヲ聽クヲ好マサレハ寧
口汝ノ口ヲ噤メ

第五則 長談及耳語

好ニテ長談スル者ハ人之ヲ厭フテ半塗ニシテ

事ニ托シテ脱スルヲ以テ已カ談ヲ遂ケサルヲ
遺憾トシテ坐中ノ某客ヲ撰ンテ耳語又ハ高談
シテ其人ヲ窮セシム真ニ^{ワシキクセ}惡習ナリ口耳ハ人ノ
所有物タリ人ノ所有物ヲ強ヒテ已カ用ニ供ヘ
ントスルハ之ヲ盜賊ト云フテ可ナリ然レ氏是
ノ如キ人アリ來ツテ汝等ト談スル片ハ勉メテ
注意シテ之ヲ聽クヘシ其中必ラス取ルヘキ者
アラシ若シ取ル所ナキモ彼ニ在ツテハ心意満
足スヘシモシ事ニ托シテ其談ヲ終ヘシマス或
ハ倦怠ノ態ヲ為サハ無益ニ其人ニ不快ヲ懷カ

シメン

第六則 注意

他人ノ談話ニ注意セサルハ野俗ナリ吾カ相識
其談話ニ注意セサルヲ怒ツテ人ヲ殺傷シタル
者數十人アリ我平生汝等ト談スル者ヲ見ルニ
人ノ談ヲ聞テ傍ラ犬猫ト戯レ烟管ヲ弄ヒ鼻ヲ
撮ミ窓ヨリ下瞰シ又碧空ヲ仰ク者ヲ見ル頗ル
多シ甚タ賤習ナリ意ヲ用ユレハ善惡萬事皆師
ナリ他人ノ談小事注意スルニ足ラサル若キモ
斟酌シテ其意ヲ推擴セハ自カラ益ヲ得ル所ア

ラン且ツ人皆自負自尊ノ念アリ故ニ人ト談話
スル際須ラク注意シテ他人ノ怨怒ヲ起スナカ
ルヘシ夫レ自負自尊ハ皆人ノ天性ナリ故ニ上
下貴賤ノ區別アルナシ然レハ吾レ吾カ部下ノ
一兵卒ヲ鞭笞スルノ怨ハ消盡スル片アルヘキ
モ侮慢凌辱ノ怨ハ終身忘ルノ時ナカルヘシ
故ニ人ノ談ヲ聞クニ注意スヘキハ勿論ナレ氏
其容貌亦注意ヲ表スルニ足ランコトヲ要ス

第七則 妨碍

談話中ニ己カ話シヲ仕掛ケ又人ノ談シヲ止メ

テ己カ話シヲ聞カシメントスルハ惡風ナリコ
ハ諸兒輩ノ善ク知ル所ナリ

第八則 意見ノ取與

凡ソ事ヲ議スルニ己カ意ヲ説カス人ノ意見ヲ
採用スルヲ嘉トスモシ己レ議負ニ加ハリタル
片ハ每事適宜ニ發論シモシ議負ナラサル片ハ
他人ノ議ニ就クヘシ

第九則 學問ノ深藏

時宜ニヨリ忠信ヲ盡シ其學問ヲ顯ハサル可
カラスト雖氏概シテ藏メテ銜ハサル方可ナリ

蓄ヘテ觀サ、ルモノハ其聲價却ツテ顯レテ自
カラ誇ル者ニ倍シ加フルニ長者ノ美名アラン
又朋友ト俱ニシテ學問才智ノ優ヲ示スヘカラ
ス夫レ學者ノ名アレハ必ラス質問ヲ來タサン
此質問ニ答フル能ハサルモノアレハ昔日ノ美
名ヲ墜シ只忘誕措大ノ惡名ヲ受ケン自カラ誇
大ニスル者ハ自カラ功業ノ光輝ヲ殺ク者ナリ

第十則 論駁ノ禮貌

人ト論スルハ須ラク容貌從容言語溫厚ナルヘ
シ決シテ劇烈ナルヘカラス

論辨ニ用フヘキ語ヲ言ハ、僕ノ議恐ラクハ過
誤アラシク僕自カウ知ラサルナリ然レモ僕ノ意
見ハ如此レカクナリ等ノ語ヲ以テ起シ議論ヲ終
ヘテ秋毫モ不快ノ意ナキヲ示スヘシ事ヲ急速
ニ議セントスルヨリ一時ノ喧嘩争論ヲ起スア
リ故ニ凡ソ議論ハ徐緩シヅカヲ要ス

第十一則 争論ノ退避

稠人廣坐之中争論ヲ慎ムヘシ争論ハ必ラス黨
ヲ起ス若シ衆中ニ争論發シ黨論愈劇ナラント
セハ温厚ノ言戲譚ノ語ヲ以テ之ヲ勸解ナカラナラススヘシ

第十二則 議論ノ温和

己カ執ル處正理ナリト雖モ怒氣ヲ含ミ大聲ニ
論ス可カラズ宜シク温和ニ論スヘシカク論ス
ルモ永ク其是非決セサル片ハ我輩ノ是非我輩
ノ能ク決スル所ニアラス且ツ莫甚タ重大ナラ
ズ宜シク暫ク談ヲ他ニ移スヘシナト、云フテ
談話ノ向キヲ更メヨ

第十三則 列坐

一席ニ適スル話モ他席ニ適セサルアリ故ニ列
座ヲ展ニワタ睥シテ言ヲ發スヘシ

第十四則

誣譎

同シ誣譎ヲ坐席ノ區別ナク話スモノハ目ナキ
人ト云フヘシ爰ニ人アリ嘗テ一誣譎ヲ以テ坐
客ノ喝采ヲ得タル以來坐席ノ區別ナク昂々自
得シテ常日同シ話シヲ為スモノアリ而シテ此
人各人好悪スル所アルヲ知ラス預メ喝采ヲ受
ケンコトヨ自信シ左右ヲ睨ニテ聲高二説出スヲ
聞クハ其冒頭ニ必ラス「吾ニ古今ノ奇談アリ衆
官注意シテ聽ヲ賜ヘ」等ノ語ヲ發ス然ルニ談ヲ
終ヘテ一個ノ喝采ヲモ来サス剩ヘ某者ノ不興

ヲ懐クモノアリ譽ヲ得ントシテ却テ嘲侮ヲ来
タシ尔後衆人ヨリ痴呆ト官名ヲ賜ハルモノハ
時ト場合ニ心ヲ用ヒサルノ失ナリ
第十五則 自負

凡ソ自個ノ身ノ上ヲ他人ニ語ルヘカラス人モ
問ハサルニ我カ父子兄弟ヲ話シ己カ履歷等ヲ
語り又邪猜深ク誰モ毀ラサルヲ辨論シ讒セサ
ルニ其冤ヲ訴ヘ己カ良善ヲ人ニ示サント計リ
内自悦ンテ念ハン自身ノ事ヲ談スルハ人ノ言
ヒ難キ所ナリ故ニ吾カ訴ヘヲ以テ他人必ラス

謂ハシ彼レ實ニ人ノ讒毀ヲ被フリ已ムヲ得
ルニ出ル處ナラント然レモ中人以上ノモノ
シソ斯ノ如キ淺謀ニ惑ハサルヘケンヤ
更ラニ一層狡猾ナルモノハ長者温厚ノ語ヲ假
リテ人ヲ蠱惑セントシ已カ不幸ヲ訴フルニ吾
性愚ニシテ少ヨリ智勇正忍ノ四者ヲ履行セシ
ト希望シ而シテ今日ノ不幸ヲ来タスモノ他ナ
シ實ニ著眼善ナラス此四者ヲ履行セシニ依ル
ヲ説キ其言必ラス云ハシ「吾性人ノ不幸ヲ見テ
傍觀スル能ハス微カ善ク為ス所ナシト雖モ力
ミス

ハ及フ所ニ於テ遺ス所ナレ直言ノ身ニ不利ナ
ルヲ知ルト雖モ資性慥愚ニシテ忘誕ヲ吐ク能
ハス是等渾テ吾心ノ濶大ナラサルニ因レリ嗚
呼斯世ニ生レテ既ニ諂媚スル能ハス為ソ善ク
繁榮ヲ得ヘケンヤ近属漸ク著眼ノ非ナルヲ悟
ルト雖モ身已ニ老タリ更ニ吾道ヲ改ムル能ハ
ス奈セン唯吾平素慣習ノ道ヲ履テ死センノ
ト
是言實ニ捧腹スルニ堪ヘタリ然ルニ世間夥ク
此種ノ言語ヲ用ユルモノアリ自負ノ念ハ人欲

ノ至大至強ナルモノナリ故ニ小事ト雖凡羸ヲ
欲シ輪ヲ好マサルナリ言フ所盡ク信實ニシテ
偽ナラサルモ自負ノ氣ヲ將テ語レハ稱賛ヲ得
ル者稀ナリ
馬ニ跨リテ一里程ヲ半日ニ馳過タリト云フ
モノハ虚誕ナリタトへ信實ナリ凡畢竟健脚夫
タルニ過キス又一飯数升ノ粟ヲ盡シ一飲数瓶
ノ酒ヲ傾ケタリト云フ者アラシク二人之ヲ虚誕
トセハ幸甚ナラシク否サレハ唯怪獸ナラシク
此種ノ自負ニヨリ名ヲ釣ントメ却ツテ辱ヲ受

ルモノ許多アリ此ノ如キ汚名ヲ受ルヲ欲セザ
レハ己カ身上ヲ語ラサルニ若カスモシテ語次身
上ヲ説カザルヲ得サルアラハ釣名ノ語ヲ出ス
ヘカラス己カ性質ノ善惡ハ他人預メ知ラシク吾
カ言ヲ待テ後ニ決セサルナリ巧辞モ惡ヲ隱シ
善ヲ大ニスルヲ得ス辨シ好メハ其惡却ツテ愈
著シク其善ヲシテ光輝ヲ失ハシメシ自カラ功
徳ヲ誇輝セハ其言如何ニ迂曲シテ巧ミナルモ
人之ヲ憎シテ己カ名譽却ツテ損敗セン

第十六則 深黙

深黙ニシテ測^{ハカ}ルヘカラサルナカレ深黙ニシテ測
ルヘカラサル者ハ人ト親ミ難ク且ツ人ノ疑惑
ヲ起サシムルモノナリ夫レ已レ人ニ深黙ナレ
ハ人亦已レニ深黙ナラシムルヲ終フルニ已レ世
間ノ事ニ暗カラシムル智士ハ外貌^{アウガイ}眞率^{マコト}ニシテ隠蔽^{カクレ}
ナク磊落^{ライラク}ニシテ私ナク内小心ニシテ萬事ヲ蓄
藏^{サカ}シ常ニ自ラ省察檢束スルモ外ヨリ之ヲ見ル
片ハ毫^{スミ}モ檢束ノ貌ナキヲ以テ人ト親ミ易ク他
人知ラス識ラス己カ意中ヲ吐露^{アハ}スルモノナリ
凡ソ人ノ意ヲ知ラシムルモハ亦人ノ情

ナリ^{ナリ}其^其復^復覺^覺テ亦^亦同^同ニ^ニ其^其覺^覺同^同ニ^ニ
亦^亦同^同ニ^ニ其^其覺^覺同^同ニ^ニ其^其覺^覺同^同ニ^ニ
人ト語ラハ常ニ其面ヲ見ヨ人ト語ツテ俯首^{ウツムク}モ
ノハ身ニ過失アルヲ疑ハル又人ノ喜怒其面ニ
於テ知ルヘシ人ノ心意ヲ知ラント欲セハ耳ヲ
閤^カキ眼ヲ用ユルニ若カス言ヲ聽テ其意ヲ察ス
ルハ甚難ク色ヲ見テ其情ヲ知ルハ難カラス
第十八則 罵辱
人ヲ罵辱スルヲ聽ヒテ喜色アリ或ハ之ヲ傳説
スルナカレ又一時ノ怒リニ衆人ヲ罵辱シテ

快ト称スルモノアリト雖氏退ヒテ思惟セハ到底身ノ不利ヲ察スヘシ罵辱ヨリ来タス忿怒ハ盜賊ヨリモ甚タシカラシ

第十九則 賤衆

好シテ満座シ毀ルナカレ徒ラニ数多ノ讎敵ヲ醸甘シ男ニ君子アリ小人アリ女モ亦然リ但シ婦女ハ男子ニ比スレハ善者稍多カラシ故ニ状師法律ニ熟シ人、為ニ是非ヲ武夫セツキウノソウ講僧市人ニモ亦君子アリ小人アリ人咸ナ同類ナリ故ニ自カラ其情意同シク其感覺モ亦同シ只其學問異ニ

シテ風俗殊ナルノミ毫モ天賦ノ差アラス故ニ講僧武夫状師等非毀セラレテ忿恚ヲ發スルニ於テ亦少差ナシ就中群衆ヲ毀ルモノハ其禍害實ニ恐ルヘシ世ノ少年此處ニ見ナク講師ヲ愚弄スルヲ以テ文人才子ノ事ト思ヘルハ誤マレリト謂フヘシ夫レ講師亦人ナリ緇衣ヲ着スルカ為メニ更ニ善ナラス亦更ニ惡ナラス唯是レ人ナルノミ

第二十則 百禽鳥

人ノ癖ヲ真似スルハ卑夫ノ好ム處ニシテ大人

長者ノ賤ム處ナリ汝等ノ人ノ真似スルナク亦善ク人真似スル者ヲ称譽スルナカレ計ラサル禍害ヲ生スルアラシ

第二十一則 盟誓

時ノ體裁ヲ飾ラント良友集會ノ中ニ數立誓スル者アリ是等無学ノ徒實ニ良友集會ノ名ヲ辱メン夫レ赴訴ニ非スレテ誓フモノハ小人ナリ人ト語リテ顔色澁リ又驕傲倦怠ノ態アルモノハ人ヲメ不快ナラシメ怒リヲ含ムテ云ヒ發言

詳ナラス其語氣人ヲ侵スモノハ他人ノ愠ヲ起ス

第二十三則 私事

自己ノ私事ヲ語ルハ只耳ニ諱シク他人ノ私事ハ語ツテ無益ナリ且ツ夫人人ノ父子兄弟夫婦朋友ノ私事ヲ語ルモノ其實ヲ得ルヲ稀ニノ或ハ之カ為ニ儘禍ヒヲ生スルモノアリ故ニ自他ニ閉セス私事ハ語ラサルヘシ

第二十四則 發言

衆ノ喝采ヲ得ント詆諆スルニ其意暗クシテ解シ難ク闇坐靜々默々人ナキカ如ク刺サヘ其意

ホメソマシ
アリアフヒトシツマリカヘツテ

味ノ詳解ヲ要スルモノ有ルカ如キニ至ツテハ
不手際ノ形状目前ニ看ルカ如シ

第二十五則 密事

小事ト雖氏人ノ密事ヲ語レハ次第ニ頭ヲ加ヘ
尾ヲ添ヘテ意外ノ重事ヲ引起スアリ又秘密ノ
談ヲ聞カハ囁サレサルモ之ヲ人ニ漏サ、ルヘ
シ人ノ密事ヲ漏スモノハ人々疑ヒテ懐キテ其
衷情ヲ語ル人ナカラシコノコトナ
第二十六則 觀人
凡ソ口ヲ開カシト欲サハ先ツ對面ノ人物ヲ視

ヨ高僧理學家ニハ高僧理學家ノ語法ヲ用ユヘ
ク船將婦女ニ語ルニモ亦其區別ナカルヘカラ
ス
第二十七則 笑種
無學ノ徒尊貴ノ中ニ入レハ衆人ノ注目唯吾レ

一個ニ在リト想像スルヲ以テ闔坐ノ言語談笑
都テ我身ノ上ニ在リト疑ヒ人ノ耳サヤキハナシ語言笑難解
ノ語都テ怒リヲ起スノ具トナリ始メハ不快ノ
色アリ終ニ面紅頸赤マツカニナリテ汝等吾ヲ侮ツテ相嘲笑ス
ル吾能ク知レリナト、架空ノ罪案ヲ作ツテ争ムジツ

論ヲ起スモノアリ然ルニ學士ハ自ラ人ノ輕蔑
ヲ受ケサルヲ信スルヲ以テ悠然介意スル所ナ
ク卑夫ハ賤劣ニシテ猜忌深ク好シテ小事ヲ争
ヒ他人ノ言行皆ナ吾身ノ上ニアリト思フヨリ
忿怒ニ堪ヘ難ク且ツ将来ノ嘲侮ヲ預メ防カン
ト暴行暴言ニ至リ易シ一言一句ヲ聞テ其人ノ
學問ノ有無朋友ノ善惡ヲ知ルニ足レリ賤夫ノ
談ハ大率オホム子家事ニ在ラサレハ僕婢ノ可否ニ在
リ若シ家内ノ親睦ヲ誇リ若シハ近隣ノ是非
ヲ訴ヘ所謂世間話ニ身ヲ入ルオホムモノナリ

第二十八則 重厚

視聽動止適度ノ重厚ヲ得ルモノハ威儀ヲ備ヘ
テ快濶才智ヲ減スルナク常ニ媚ヒテ笑顔ヲ作
リセカ忽忙トシテ体ノ舒カナラサルハ輕率浮薄ノ
真狀ナリ

